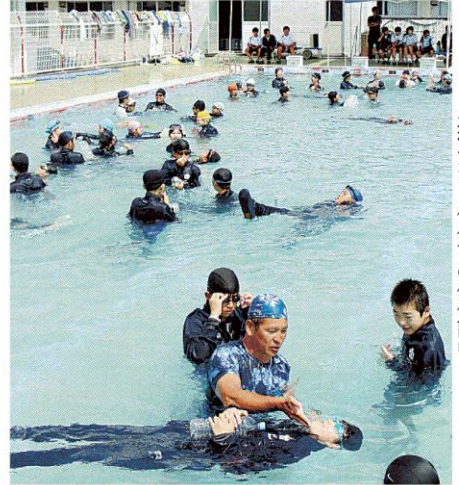




夏休み 楽しく安全に

佐伯南中で着衣泳授業



着衣のまま背浮きのコツを学ぶ生徒たち＝佐伯市の佐伯南中

【佐伯】佐伯市の佐伯南中（小野寛也校長、211人）で10日、日本赤十字社県支部の着衣泳授業があった。海や川で遊ぶ機会が多くなる夏休みを前に、水の事故から身を守る方法を知ってもらおうというもの。

同校プールで学年ごとに取り組んだ。指導は4人の赤十字水上安全法指導員が担った。

生徒は水難事故に遭った、目撃した際の対処方法を学んだ後、服を着たままプールの中へ。思うように動けなくなることを体感した後、背浮きにチャレンジ。指導員から浮くコツを教えもらいながら、無駄な体力を使わずに落ち着いて待

つことの大切さなどを学んだ。

救助法も体験した。溺れている人を見つけたら、大声で浮いて待つことを指示し、助けを呼ぶ。浮力のあるベットボトルなどを近くに投げる―ことを実際にやってみた。

1年の田中琢磨さん（12）は「服を着たままでの水の中での動き、救助の仕方など、いろいろと分かって良かった。（背浮きも）うまくできたと思う。万一の際には的確に判断し、教えてもらったことを実践したい」と話した。

また同校は全校で心肺蘇生法など救急法講習にも取り組んだ。（安部亮）

〔問①〕 服を着たままプールの授業を受けたのはなぜですか？

〔問②〕 おぼれている人を見つけたら、どのようにすればいいですか。

〔問③〕 自分の身を守るためにあなたが普段から気を付けていることがあれば教えてください。